

旭川工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	企業実習
科目基礎情報					
科目番号	0099		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	実習		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	システム制御情報工学科		対象学年	4	
開設期	集中		週時間数		
教科書/教材					
担当教員	佐竹 利文				
到達目標					
1.企業等における将来にわたるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを考えることができる。 2.キャリアイメージを実現するために必要な自身の能力について考えることができ、それを高めようとする姿勢を取ることができる。 3.企業あるいは技術者等が持つべき仕事への責任を理解できる。 4.日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を納得させることができる。 5.社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性、モラルなど、社会的観点から物事を考えることができる。 6.技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1(B-2,D-1,E-3)	企業等におけるキャリアイメージをもとに、仕事とのマッチングを正確に考えることができる。		企業等におけるキャリアイメージをもとに、ほぼ正確に仕事とのマッチングを考えることができる。		企業等におけるキャリアイメージと仕事とのマッチングを考えることができない。
評価項目2(B-2,D-1,E-3)	キャリアイメージの実現のため、必要な自身の能力について考え、かつ能力を高める努力ができる。		キャリアイメージの実現のため、自身の能力について考え、自身の能力を高める努力がほぼできる。		キャリアイメージの実現のために自身の能力について考えること、さらには能力を高める努力ができない。
評価項目3(B-2,D-1,E-3)	企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任を正確に理解できる。		企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任をほぼ正確に理解できる。		企業、技術者・研究者が持つべき仕事への責任を理解できない。
評価項目4(B-2,D-1,E-3)	日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を十分に納得させることができる。		日本語を用い、概ね効果的な説明方法や手段を用いて関係者をほぼ納得させることができる。		日本語を用い、効果的な説明方法や手段を用いて関係者を納得させることができない。
評価項目5(B-2,D-1,E-3)	社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性、モラルなど、社会的観点から積極的に物事を考えることができる。		社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性、モラルなど、社会的観点から積極的に物事を考えることができる。		社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与することができる。人間性、モラルなど、社会的観点から積極的に物事を考えることができない。
評価項目6(B-2,D-1,E-3)	技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を正確に理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができる。		技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義をほぼ正確に理解し、自らのキャリアを計画し、それに向かってほぼ継続的な努力ができる。		技術者として、技術と自らの現状および将来のあるべき姿を認識し、将来にわたって学習することの意義を理解できず、自らのキャリアを計画し、それに向かって継続的な努力ができない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 システム制御情報工学科の教育目標 ② 学習・教育到達度目標 本科の教育目標 ② JABEE B-2 JABEE D-1 JABEE E-3 JABEE基準 (a) JABEE基準 (d) JABEE基準 (h)					
教育方法等					
概要	企業等における5日以上就業体験を通じ、企業技術者等の指導のもとで学校では経験しない実際の課題に取り組み、実務体験する。さらに、高専3年間に得られた知識、能力をさらに発展し、技術者が社会に負っている責任を自覚し、技術者としての心構えについて学習する。				
授業の進め方・方法	本科目は1単位としているが、企業実習を受けることができない場合は5年次での専門選択科目を1単位受講することになる。企業実習終了後、実習証明書、報告書を提出する。さらに、実習報告会において学んだ成果を発表する。				
注意点	・教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目の割合は、B-2 (10%)、D-1 (20%)、E-3 (70%)とする。 ・評価については、合計点数が60点以上で単位修得となる。その場合、各到達目標項目の到達レベルが標準以上であること、教育プログラムの学習・教育到達目標の各項目を満たしたことが認められる。 ・受入企業等の中から、学生の希望、企業等の要望を勘案し、実習先(民間企業等)を決める。ただし、実習先については本人の希望を考慮するが、実習先の都合・受け入れ企業数により希望に沿えない場合もある。課題は実習先から与えられ、与えられた制約の下で、企業技術者等の指導のもとに積極的に仕事を進める。実習の目的、心構え、社会のルール等について理解し、行動すること。 ・受入企業等の事業内容を事前に承知しておくとともに、企業実習の趣旨・目的を把握する。 ・企業実習は受入企業等の多くの人の協力のによって実現できることを肝に銘じ、実習生としての責任を十分自覚し、その言動に責任を持つとともに、礼節を守った行動をとる。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	実習期間	夏期休業期間中に5日間以上とする	
		2週	実習希望の取りまとめと実習企業への割り当て	・担当教員により学生の実習希望を取りまとめる ・担当教員により実習企業の割り当てを行う ・企業の他、その他受け入れ可能な国、地方公共団体、教育委員会、大学等で補う	
		3週	課題	・実習先から与えられる課題を行う	
		4週	企業実習期間中	・就業規則等を遵守する ・実習先担当者の指示に従う ・事故に遭遇しないよう細心の注意をする ・実習後は礼状を出す	

後期		5週	実習報告書	・実習報告書の作成：学生は実習終了時に報告書を作成し、実習先と担当教員に提出する ・学んで得た成果を論理的な文章にまとめ、分かりやすい表現ができる。
		6週	企業実習証明書	・実習受入企業から学生の実習状況について、企業実習証明書を学校へ提出していただく
		7週	実習報告会	・実習期間中に行ったこと・学んだこと、到達目標の達成度などを分かりやすくプレゼンテーション資料にまとめることができる。 ・発表内容が分かりやすく聞き取りやすいプレゼンテーションを行うことができる。
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	4	前1,前3,前4
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	4	前1,前3,前4
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	4	前1,前3,前4
				企業における社会的責任を理解できる。	4	前1,前3,前4
				企業活動が国内外で他社(他者)とどのような関係性を持つかを理解できる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	4	前1,前3,前4
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	4	前1,前3,前4
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	4	前1,前3,前4
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	4	前1,前3,前4
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	4	前1,前3,前4
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	4	前1,前3,前4
		共同教育	共同教育	クライアント(企業及び社会)の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	4	
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	4	
				品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる。	4	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	4	
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	4	

				問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	4	
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	4	
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	4	
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	4	
				企業人としても成長していく自分を意識し、継続的な自己研さんや学習が必要であることを理解できる。	4	
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	
				技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	

評価割合							
	企業の評価	実習報告書	実習報告会	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	45	15	0	0	0	100
基礎的能力	40	45	15	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0